

孤立させず非行予防

ここにいるよ

沖縄子どもの貧困

第4部 支援の現場から (2)

⑧

「おやぢ買ったス、ドロッケー」

やるが。喜望峯町山川の認定NPO法人「伴学スタオーラ・今人」沖縄校。喜望峯校長(36)が小学生たちを外遊びに誘うと、「エアもたちが「やそやそー」と騒音を上げた。伴学保育「すみれ」を詐欺から自主運営し、小学1年から6年まで十数人が在籍する。町の学童保育料補助を受けて通う困窮世帯の子や障がいのある子、地域の学童クラブの定員から漏れた子どもを、さまざまなお見舞いを受け入れている。

■ 伴学園(サムカク)は喜望峯町上田市と東京で不登校やひきこもりの若者の自立、就労を支援してきた。今春開校した沖縄校も本来の趣旨は同じだが、困窮家庭が多い県内は授業料を払えない例も目立つ。そのキヤンプを埋めるため、行政の貧困対策事業などを活用し、子どもを受け入れていく方針だ。

「おやぢ買ったス、ドロッケー」

やるが。喜望峯町山川の認定NPO法人「伴学スタオーラ・今人」沖縄校。喜望峯校長(36)が小学生たちを外遊びに誘うと、「エアもたちが「やそやそー」と騒音を上げた。伴学保育「すみれ」を詐欺から自主運営し、小学1年から6年まで十数人が在籍する。町の学童保育料補助を受けて通う困窮世帯の子や障がいのある子、地域の学童クラブの定員から漏れた子どもを、さまざまなお見舞いを受け入れている。

「おやぢ買ったス、ドロッケー」

「子に触発され親も変わる」



子どもが大事に履いていたスニーカー。父親との思い出が詰まっている

ついでに「メン」というスタンスだ。

ある困窮家庭の低学年の子はボロボロのスニーカーを大切に履いている。両親の離婚で金銭なくなった父親が買った靴だと思いの出の足だからだ。靴屋がはがれ、大きな穴からつま先がはみ出しているが、この子にとっては今も重要な場面で履く「勝負靴」。学校の長距離走の大会ではこの靴で上位入賞した。

「大事なものは大事で、捨てられないって気持ち、よくわかる。子どもなりに表現したい気持ちがあつて、いろんな思いを抱えて生きている」。藤目さんは温かいまなざしで子どもたちを導く。

「かわいそうとか救いたいとか、そんなじゃない。孤立するのを防げば、ほとんどの子がちゃんと生きていける。こいつが落していることを子どもたちは敏感に察するし、そもそも親や先生を責めても、子どもの状況が好転するわけではない」と話す。家庭や学校と敵対するのではなく、子どもを一緒に守る

田嶋正樹(仮名) 1 読者投稿